



子どもたちを守れ — 大人・近所のかたで

5月27日(月)古牧公民館で「学校と地域で子どもを守る古牧地区連絡会」が開かれました。連絡会に関係する地区内の6小・中学校、警察関係、13区の区長等76名が参加し、それぞれの子どもを守る取り組みについて情報を共有しました。

長野中央警察署生活安全課第一課の近藤俊也課長から、諸情勢についての講話をしていただきました。子どもが帰り道などで一人になる時間をなくすことが犯罪の抑止につながる等、実際的なご指導に触れ、今後の活動の参考にさせていただきたいと考えております。

交通安全部では、毎月第一水曜日に西尾張部交差点で交通安全の街頭啓発運動の日として交差点に立っています。この交差点では、平成25年に三陽中学校の生徒さんが交通事故で亡くなられ、その後、古牧地区内で複数の死亡事故が発生しました。



そして、6年も経た今も三陽中学校の生徒、教員の方々が自ら街頭啓発に参加していただいています。この活動は啓発の効果を一層高めるだけでなく、子どもたち自身が身を守るための安全教育としても有意義なものと考えます。

地域と各機関の連携による子どもの安全の確保は、今後、ますます重要になると思われます。しっかり取り組んでいきましょう。

(防犯部)

交通安全運動を終えて

今年の春の全国交通安全運動は、5月11日(土)から5月20日(月)までの10日間でした。その期間にかぎらず古牧地区内での出来事をお伝えします。

5月27日、古牧公民館で「学校と地域で子どもを守る連絡会」が開られました。このなかで、長野中央警察署及び和田交番から、防犯・交通安全についての管内を取り巻く諸情勢、各小・中学校、そして住民自治協議会からの各種の取り組み状況の説明がありました。特に多発の傾向となっている交通事故については、高齢者によるところの事故や駐車場内での後

退時の事故、各種店舗や金融機関の出入り口での衝突事故など、周囲への安全の不確認による事故が多く発生しているとの事でした。

春の全国交通安全運動開始前日5月10日には、長野市高田の点滅信号機がある市道交差点で、横断中の自転車と直進のオートバイが衝突する事故が発生しました。

交通安全運動期間中はもとより、普段から交通安全ルールの遵守、安全確認徹底、安心・安全MAPなどによる注意喚起活動、気になる箇所の早期改善など少しでも事故が減少していくように、古牧地区住民自治協議会全体で安全・安心の取り組みを推進してまいります。(交通安全部)

地域福祉大会 開かれる

5月30日(木)古牧公民館で地域福祉の担い手である福祉推進員、保健補導員、子育て支援部のみなさんをはじめ、福祉関係団体の責任者、各区長、住民自治協議会の役員130名のみなさんが一堂に会し「地域福祉大会」を開催しました。

主催者を代表して長田元行会長のあいさつに続き、来賓の代表として市社会福祉協議会の海沼充課長、市議会議員から祝辞をいただきました。

その後、宮澤明彦福祉部会長から、令和元年度の福祉事業の取り組み方針について、荻原一福祉部長、宇佐美誠子子育て支援部長から本年度の事業計画について説明がありました。

また、策定中の古牧地区支え合い活動について宮澤福祉部会長は、各区における高齢者を対象にした活動事例などを説明。少子高齢化が進む地域にあって、益々、高齢者を支え合う活動の大切さを語りました。

講演では、理学療法士の加藤弘貴氏を招い

て、体操を交え「健康」で長生きする秘訣についてお話いただきました。

その中で介護予防のキーワードとして『あしたわ健康』は、とても興味のわくお話しで『あ→歩く・し→喋る・た→食べる・わ→笑う』との事でした。

参加者からは、『各区の福祉活動、いろいろ工夫をしてやっていることに興味した』『身体を動かしての講演、気分転換になりました』『本当に支える必要がある人が出てくることができる工夫を』などの声がありました。

高齢者や支援が必要な人、子どもたちに対する福祉活動の取り組みの推進、健康で生活することの大切さを学んだ大会となりました。

(福祉部会)



「古牧の元気応援事業」(支所発地域力向上支援金事業)の交付団体を決定

6月20日(木)古牧地域の皆さんの活動が活発になり、新たなコミュニティや仲間作りが進み地域がもっと元気になるようにと地域の団体が行う事業に支援金を交付する「支所発地域力向上支援金事業」の対象団体(グループ)を決定する審査会が開催されました。

あらかじめ、古牧支所が事業の募集回覧を行い8団体(グループ)から応募があり、住民自治協議会の長田元行会長など7名の審査員で審査を行い、それぞれの団体に交付される補助金の交付額が決まりました。

この補助金を活用して、それぞれの団体(グループ)が更なる活動などに取組まれ地域力の向上、元気な地域づくりに役立つことが期待されます。

交付団体(グループ)一覧

交付団体	事業名	事業概要
健康吹き矢サークル	社会福祉推進事業	高齢者の外出の機会を増やし、健康維持・増進を図るため、健康吹き矢用具を購入する。
西和田区	防災用収納庫の整備	災害発生時に迅速な対応を図るため、防災物品を一括保管するための倉庫を購入する
五分一区	自主防災会備品整備	災害発生時の自主防災会役員の安全を確保し、役員の目印にもなる防災ヘルメットを購入し役員に貸与する。
川端区	防災・福祉用品の整備	軽量でコンパクトな車椅子を購入して災害時に活用するとともに区民へ貸出し、共助活動の充実を図る。
西尾張部区	福祉健康増進事業	健康吹き矢用具を購入して、高齢者が集まる事業などで活用し健康増進を図る。また、世代間交流事業でも活用を図る。
南高田区	防災・区民交流の備品整備	テントを購入し災害時には避難場所に設置するほか、屋外での事業にも活用して区民交流を図る。
中村区	防災・防犯用品の整備	災害時に混乱しないよう隣組の目印となる誘導旗を購入する。また、地域の見守り活動時に着用する帽子・ベストを購入して犯罪抑制を図る。
東和田区	福祉推進用の備品整備事業	公会堂の和室用の座椅子を購入し、足の不自由な高齢者も気軽に参加できる環境づくりを行う。

地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」 公民館役員研修会開かれる

6月1日(土)古牧公民館において、48名が参加して公民館部役員研修会が開かれました。長野市地球温暖化防止活動推進センターの堀池政史政策部長が「地球温暖化について考えよう」と題して講演。各地域公民館の実践発表がありました。



堀池政史政策部長が「地球温暖化について考えよう」と題して講演。各地域公民館の実践発表がありました。

すべての国が参加する形で、2020年以降の温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」が2015年に採択されています。堀池講師は、世界共通の目的として、世界の平均気温上昇を2度未満にする(さらに、1.5度に抑える努力をすること、今世紀後半に温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることが打ち出されたと解説。日本は2030年に向けて、温室効果ガス排出量を26%削減(2013年度比)する目標を掲げているとしました。「COOL CHOICE」は、

この目標達成のために、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動など温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取り組みだと強調しました。

地域公民館の実践発表では、川端公民館の鈴木久明館長は、活動目的として地区の住民が互いに親睦を深め、住みよい環境となるよう区並びに関係諸団体と連携をとりながら、その補完機能を発揮したいとしました。活動課題については①役員任期の長期化(10年以上)があり、選任方法および任期の短期化への変更が求められる②高齢化により各行事の存続が難しくなると予想されるとしました。

中村公民館の日向修一館長は、活動課題について、女性役員の参加として、四役・スポーツ推進委員5名の内、女性は2名(昨年度比1名増)。サークル活動等の活性化が公民館(新築 平成28年2月)利用の促進へとつながる。

東和田公民館の松木猛館長は、活動課題として役員任期が長期化しているとしました。(公民館部)

歴史探索

ぐるりわがまち

中村

曹洞宗 観音庵

古牧郷土史研究会 中村 小林 敬二

中村の曹洞宗観音庵は、今から175年程前の弘化元年(1844年)の建立と思われる。初代庵主了員が一念発起し、公にした建立趣意書(写真)と発表したのが天保15年(1844年)8月。

難解な文章で、解読も大変だが、佛法を崇め、先祖供養のため広く喜捨を乞う真情溢れる「草庵を建立する序」となっている。

時代背景を考えると、近世の飢饉として、天明の飢饉と天保の飢饉が有名であるが、天明3年(1783年)・6年(1786年)と続いて起きた飢饉では北高田村は名主名で代官所へ租税減額を願い出ている。また、天保4年(1833年)・

7年(1836年)と不作が続いた天保の飢饉でも北高田村(中村・北条・川端・五分一)が財政面で厳しい状況に置かれたことは間違いない。

北高田村の中村組は、天保5年(1834



庵創建以前から安置されている親子像台座、建物は江戸時代以前の物か。

次頁につづく

前頁のつづき

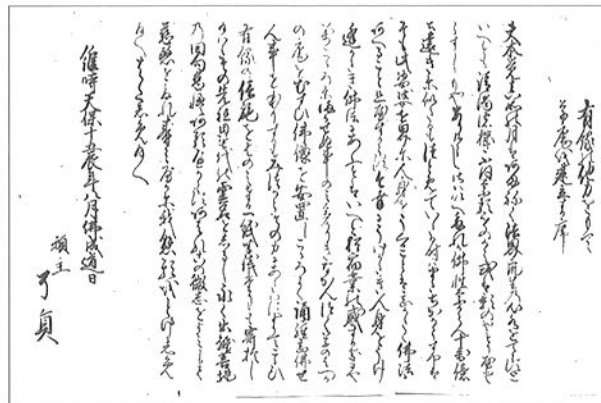
年)当時、高145反余戸数18戸、人数71人であった。(古牧誌)

こうした中での草庵建立がいかに困難を伴った大事業であったことが想像に難くない。

建立に当っては、村内は勿論のこと、近隣地域のほか善光寺町の大商家も全て回ったようで、それぞれ寄進に名を連ねている。

当時の関係者の皆様のご苦勞に頭が下がる思いである。

始祖了員尼の熱い思いは代々受け継がれ、



現在は 8 代目荒木明心尼が地域と共にある観音庵をしっかりと守っている。

7月から8月までの主な行事实施日のお知らせ

(多くの皆様の参加をお待ちしています)

事業名	実施日	場所	実施内容	主催
男女共同参画セミナー	7月26日	古牧公民館	講演：男女共同参画って何だろう？	人権・男女参画部
世代間交流マレットゴルフ	7月28日	長野運動公園	三世代間交流事業	福祉健康部
医療講演会	7月31日	古牧公民館	講演：日本人の死亡原因のランキング紹介 ～どう対処しましょう～	福祉健康部・保健補導員
公民館対抗球技大会	8月25日	3会場	軟式野球、バレーボール、卓球	公民館部



プラゴミ

最近、新聞やテレビなどで大きく報じられているプラごみ問題。日常生活の中で、プラスチックはあらゆる物に使用されています。

私は、平林区環境美化を担当していますが、プラ収集日に、汚れたプラの混入など違反ごみが年間500袋余り発生します。

日本国内で、一年間に使用されるプラスチックの4分の1は、リサイクル、大半は処分されます。国内では、処理が出来ず輸出されていましたが、

最近マレーシアなどでは環境悪化を懸念して輸入を禁止。日本へ送り返す動きがでています。

海洋に流出したプラスチックは、微小プラスチック(マイクロプラスチック)有害物質が含まれ、貝魚などに蓄積され人間が食べ悪影響が心配されています。

世界中で早急な削減が必要です。まずは、身近なところから見直し、意識改革をしましょう。

(町田 和雄)



古牧地区の世帯数と人口

令和元年6月1日現在

11,428世帯

26,637人

(男 13,121人

女 13,516人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX 219-1057)
(E-mail: komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 長田 元行
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR